

平成21年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その1)

計画体系コード	5-4-1	事業名	藻岩山魅力アップ事業
担当	観光文化局観光コンベンション部観光企画課 常川 211-2376		
全体計画			
事業内容	<年度別の事業内容>		
	<p>(H19年度) 札幌紹介施設等基本計画策定 環境配慮ガイドライン策定 ソフト事業への支援 (持続的に藻岩山の魅力発信する仕組みの構築)</p> <p>(H20年度) 魅力アップ事業全体の基本計画策定、基本設計案の策定 環境配慮ガイドラインの管理(～H22年度) ソフト事業への支援(～H22年度)</p> <p>(H21年度) 札幌紹介施設等の実施設計</p> <p>(H22年度) 建築土木工事 開業</p>		
事業内容	平成19年度事業内容(決算)	平成20年度事業内容(決算)	
	<p>施設再整備については、札幌振興公社が藻岩山再整備準備室を設置し、札幌市もメンバーとして具体的な整備内容の検討を進めた。</p> <p>環境への配慮はこの再整備の重要テーマとなっており、18年度に引き続き複数年にわたる調査が必要となる猛禽類などの現地調査を含めた自然環境影響調査を実施したほか、市民意見交換会の開催や学識者懇談会の設置と委員へのヒアリング等を経て環境配慮ガイドラインを策定した。</p> <p>山頂展望施設内に整備を予定している札幌紹介施設については、その基本計画を策定した。この施設は、札幌を一望できるという藻岩山の特性を活かし、シアター形式で札幌を紹介する機能を有するもので、その規模・設備等の検討を進めている。</p> <p>ソフト事業については、藻岩山の日記念事業のほか、秋には「お月見ナイト」、冬は「ロマンティックパスポート」を期間を延長して実施したほか、「バージェイス」に替わって「アイステラス」を実施し、冬季間のロープウェイ利用者の拡大につながっている。このほか、(株)りんゆう観光、NPOのねおす、藻岩山さきご観察会などが藻岩山をフィールドとして季節に応じた様々な事業を展開している。</p> <p>藻岩山来場者数(19年度実績) 520,857人(うちロープウェイ輸送人員 328,013人)</p>	<p>ハード整備に関しては、プロポーザル方式による事業者の選定を実施した。初回は応募者がなく、建設業務を対象から外した再募集を実施し、12月に事業者を決定した。引き続き魅力アップ構想施設再整備全体の基本計画案を2月に策定し、市議会経済委員会に報告、3月末からパブリックコメントを実施した。</p> <p>札幌紹介施設については、19年度に策定した基本計画を踏まえてプロポーザル事業者との調整を進め、導入を予定している大型映像装置を最大限に活用できるコンテンツの制作計画などとあわせて21年度に予定される実施設計に向けた調整を行った。</p> <p>これらハード整備の計画、設計を進めていくにあたり、藻岩山の自然環境の保全が図られているかについて、環境配慮ガイドラインに基づく管理を実施した。(20年度は基本計画段階における管理)ソフト事業については、藻岩山の日記念事業、お月見ナイト、ロマンティックパスポートなど、これまで実施している季節毎の核となる事業についてその継続、充実を図るとともに、新たに「七夕」の実施やロマンティックパスポートのさらなる期間延長など、事業の拡大を図った。</p> <p>藻岩山来場者数(20年度実績) 493,247人(うちロープウェイ輸送人員 323,465人) 燃料高騰の影響を受け観光道路の利用者数12%減 ロープウェイは2月、3月の悪天候による運休が影響し1.4%減</p>	
現場	平成21年度事業内容(予算)	平成22年度事業内容(予算)	
	<p>ハード整備に関しては、基本計画の確定させ、基本設計、実施設計を進め、22年4月からを予定している建設工事に向けた手続きを進める。</p> <p>環境配慮ガイドラインによる管理についても、設計段階の管理と22年度に実施する工事段階の措置方針の決定を行う。</p> <p>札幌紹介施設は、上映コンテンツの制作に取りかかり、21年度に2本、22年度に1本、計3本の上映プログラムを制作予定である。</p> <p>ソフト事業は、さらに事業の拡大を図っていくとともに、リニューアル後の集客増に向け、環境学習や天体観測といった新しい分野の事業を試みる。併せて、藻岩山の施設を管理する札幌振興公社、スキー場を運営する(株)りんゆう観光のほか、ねおす、藻岩山さきご観察会などのNPOや市民活動団体が自立して活動していく体制づくりを進める。</p>		
所			
規模			
件数			
等			

平成21年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その2)

計画体系コード	5-4-1			事業名	藻岩山魅力アップ事業		
達成目標の状況							
項目	18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (実績)	21年度末 (予定)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)	
藻岩山の再整備	-	-	基本計画案 策定	基本設計 実施設計	建設工事	整備	
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
<p>市民との連携、市民参加 藻岩山の魅力を考える懇談会(H16)に公募市民が参加、この懇談会の提言を踏まえて藻岩山魅力アップ構想を策定 藻岩山の施設改修について考える市民意見交換会(H19)を計3回実施し、これらの意見を反映させて環境配慮ガイドラインを策定 藻岩山魅力アップ構想施設再整備基本計画案についてパブリックコメントを実施</p> <p>企業等との連携・協働 [資金協力] 収益的施設の整備は札幌振興公社が実施。給排水設備、中腹駐車場等の周辺環境整備は、公社による整備を市が支援する形で実施 [人材協力] 藻岩山をフィールドとして活動するNPOや企業の人材を活用することが今後のソフト事業展開に不可欠である。 [情報協力] リニューアルオープンに合わせて、旅行エージェント、情報誌等企業のPR媒体を積極活用し、集客を図る。 [その他の協力] 環境に対する意識の変化に伴い、企業の環境配慮活動や環境教育の場としての藻岩山の活用を提案していく。 市民・企業等が参加しやすい環境づくり 藻岩山は、ロープウェイ、観光道路以外にも登山者の利用が年間10万人にも達するほどの市民に親しまれている山であり、今後も施設整備、環境保全等の面で市民参加、市民理解を得ながら事業を進めていく。また、大都市に近接した豊かな自然環境は国内にも例がなく、企業の環境に対する取り組みをPRする場、NPO等による環境活動の場、さらには子どもたちに対する環境教育の場としても活用できるような藻岩山になることを目指すものである。</p>							
評価(成果)			課題				
<p>ソフト事業重視の方針を受けて、藻岩山をフィールドとして活動する事業者、NPO等による積極的な事業展開を行っている。特に、藻岩山の日(5/31)の来場者数は19年度が10,626人、20年度が7,351人を数え、市民への事業の定着、藻岩山の魅力の認識が進んでいるものと考えられる。このほか一連のソフト事業の実施により、ロープウェイによる藻岩山への来場者も増加の傾向にある。(20年度は、2月、3月の悪天候で運休が多かったため微減) 施設を使いやすく魅力あるものにするハード面の再整備によって集客増を図ることは当然であるが、魅力あるソフト事業や、資源として藻岩山が既に有している豊かな自然環境をより多くの市民・観光客に知ってもらうことによってもたらされる集客の意義は、施設の改修後、数年経過後に現われてくるものであり、今後も重要なポイントであると考えられる。</p>			<p>藻岩山の貴重な自然環境への配慮は、施設再整備の最も重要なテーマであり、19年度に策定した環境配慮ガイドラインを通じて、計画、設計段階から工事、そして供用後に至るまでしっかりした管理を進めていく必要がある。また、こうした自然環境の保全、環境への配慮自体が集客要素として評価される対象にもなると考えられる。 再整備事業の実施にあたっては、事業実施の主体となる札幌振興公社のほか、土地の所有者である国の関係機関、展望台の設計・建築を行うプロポーザル事業者、さらに天然記念物のエリアであり風致地区、市街化調整区域であることによる規制、山頂展望台の規模拡大に伴う、上下水道、電気、道路等ライフラインの整備など、関係する機関が多いことから、これらの調整による事業の円滑な進捗が重要な課題である。 ソフト面においても、各種事業を充実させ更なる集客交流を進めていくとともに、藻岩山をフィールドとして活動する事業者・NPO団体などの人材育成を図り、リニューアル後の施設を十分に活用して事業展開を図る体制づくりを進めていくことが長期にわたっての安定した集客を確保していくために必要なことと考えられる。</p>				
今後の事業の予定・方向							
<p>藻岩山は自然と共生する札幌のまちづくりの象徴として、多くの市民が誇りに思う対象であり、札幌を感じられる場所・見える場所として、市民や観光客の区別なく誰もが訪れたいような場所となることを目指すものである。本事業は、今後の環境重視社会、超高齢社会に対応したまちづくりの一環として、まちづくり交付金の制度なども活用して進めるものである。 今後、札幌市と本事業に係わる民間事業者、関係機関との適切な役割分担のもと「藻岩山魅力アップ構想」の着実な推進及び具体化を図っていく。 施設がリニューアルされる平成23年度以降は、魅力あるソフト事業を展開していくこと、そのための関係団体・機関の連携とソフト事業を担う人材の育成、新しくなったハード・ソフト両面について積極的な情報発信・PR活動の展開を進めていく。また、これによって藻岩山に集客される市民、観光客をいかに市内の各観光施設に還流させるかについても、山頂展望台内に設置する札幌紹介施設の活用と山麓ロープウェイ駅までの交通アクセスという両面から検討していく。</p>							

平成21年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その3) (単位:千円)

計画体系コード		5-4-1			事業名	藻岩山魅力アップ事業				
事業費の推移										
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計				
計画	事業費	22,400	41,200	277,700	262,700	604,000				
	財源内訳									
	国・道支出金	0	16,600	79,200	77,200	173,000				
	市の債	0	5,760	33,270	26,970	66,000				
	その他の	0	0	80,000	70,000	150,000				
一般財源	22,400	18,840	85,230	88,530	215,000					
予算	事業費	22,400	36,300	44,300	-	103,000				
	財源内訳									
	国・道支出金	0	12,884	17,000		29,884				
	市の債	0	0	0		0				
	その他の	0	0	0		0				
一般財源	22,400	23,416	27,300		73,116					
実績	事業費	21,714	15,744	-	-	37,458				
	財源内訳									
	国・道支出金	0	0			0				
	市の債	0	0			0				
	その他の	0	0			0				
一般財源	21,714	15,744			37,458					
事業費の進捗率		(H19実績事業費 + H20実績事業費 + H21予算事業費) / (計画事業費)					13.5%			
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)										
(全体) 事業スケジュールとしては、プロポーザル事業者の選定が北海道開発局の談合問題等の影響を受け再募集となったことに伴い、事業の進行が当初の計画より、約半年遅れている。また、事業規模についても、20年末からの急速な経済環境の悪化により資金調達計画の変更が必要となっており、これに伴う事業規模の変更も予定されている。										
[19年度]										
[20年度] 事業スケジュールの遅れに伴い、20年度に予定していた設計業務が21年度の実施となっている。まちづくり交付金の活用も21年度からとなり、21年度に基本設計・実施設計、22年度に解体・建設工事を実施し、22年度末に竣工という計画である。										
[21年度]										